

イスラエルがペリシテと
たたかっていた^{とき}の事です。



ペリシテには、
ゴリヤテという^{なまえ}名前の
^{おおおとこ}大男がいました。
きらきら^{ひか}光るよろい^きを着て、
^{なが}長いやり^もを持って、
ゴリヤテは^{おおこえ}大声で
さげびました。
「おーい、おれさまと
たたかうやつはいないか！」
イスラエルの^{へいたい}兵隊は、
ぶるぶるふるえて
にげだしました。

「よし、ぼくがゴリヤテとたたかうぞ」
ダビデは、^{かみ}神さまが^{いっしょ}にいて
^{たす}助けて^しくださることを知っていたのです。



お兄さんたちがいいました。
「むりだよ。まだ小さいんだから」



王さまもいいました。
「むりむり。ゴリヤテは
強いんだから」



ダビデは、きっぱりといいました。
「ぼくは、くまやライオンだってやっつけたんですよ。
だいじょうぶ。神さまが助けてくださいます」

